



私たちの S W G s (Sustainable Well-being Goals) 実践宣言

NEXT SDGS

SWG sとは、Sustainable Well-being Goals（持続可能なウェルビーイング目標）の略称です。SWG sを直訳すると「持続可能なウェルビーイング目標」となり、「持続可能性 (Sustainability)」と「ウェルビーイング (Well-being)（心も、身体も、人とのつながりも、全てが“よい状態”のこと）」という二つの核心的な価値が統合されています。

SWG sは、「地球環境と調和しながら、すべての人々の真の幸福を実現する」という理念を表現しています。2030年に期限を迎えるSDG s（持続可能な開発目標）の次の国際的な枠組みとして注目されており、経済成長だけでなく、人々の幸福や健康、充実感といったウェルビーイングを中心に据えた新しい目標体系であり、SDG sが掲げる「負の遺産を減らす」という理念をさらに発展させ、「正の遺産を創り出す」ことを目指す、日本発の新たなビジョンです。（ただし、現時点では国連などによる公式な定義は存在していません。）

SDG sが広く浸透する中で見えてきた課題を補完する考え方とされており、あくまでSDG sを否定するものではなく、その土台の上に築かれるものであり、SDG sが「地球を守るための目標」なら、SWG sは「人の幸せを守るための目標」です。

SWG sは、基本的に、難しいルールはなく、幸せを「つくる」「つなぐ」「続ける」といった3つの行動を大切にすることです。

- ① 幸せをつくる（身のまわりの人を大切にしよう）
- ② 幸せをつなぐ（誰かのための行動は、まわり回って自分に返ってくる。）
- ③ 幸せを続ける（無理せず、長く続けられることを。“がんばる”より、“ほどよく”がSWG sの考え方。）

SWGs と SDGs はともに持続可能な社会を目指しますが、その焦点やアプローチには違いがあります。

特 徴	SDGs (持続可能な開発目標)	SWGs (持続可能なウェルビーイング目標)
目標期限	2030 年	2030 年以降を見据える
理念	負の遺産を減らす	正の遺産を創り出す
焦点	経済成長と環境保護	人々の幸福 (ウェルビーイング)
指標	数値的な達成度重視	客観的データと主観的幸福感の両方を重視
主体	国連が定める国際目標	民間主導のビジョン文書

当法人の活動が誰のどんな幸せにつながるのか、当法人に関係するみなさまにとって実感できる価値があるのか、追及することで、当法人、そしてスタッフのやりがい、生きがいにつながる価値が創造できるはずです。

このようにしてみると、「SWGs」も「人を大切にする経営」そのものであると考えます。

私たち社会福祉法人雲南ひまわり福祉会は、SWGs (Sustainable Well-being Goals) の実践を宣言します。

2026年4月28日

社会福祉法人雲南ひまわり福祉会
理事長 横山 元裕